

# 小学校外国語（英語）教育における学習者用デジタル教科書を 活用した「読むこと」の指導

—推測して読む言語活動を通して—

高橋 美由紀\* 山内 優佳\*\* 柳 善和\*\*\*

\* 名誉教授

\*\* 広島大学

\*\*\* 名古屋学院大学

## Teaching “Reading” Using Digital Textbooks for Students in Elementary School Foreign Language Education: Through Deduction, Guessing and Inference Reading of Language Activities

Miyuki TAKAHASHI\*, Yuka YAMAUCHI\*\* and Yoshikazu YANAGI\*\*\*

\*Professor Emerita of Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\*Hiroshima University, Higashi Hiroshima, 739-8511, Japan

\*\*\*Nagoya Gakuin University, Nagoya 456-8612, Japan

### I. デジタル教科書

#### 1. 研究の目的・背景

デジタル社会に対応した文部科学省の「GIGAスクール構想」により（文部科学省 2021a），児童生徒に一人1台のタブレット端末が配布された。そして，学習指導要領の総則においては，ICTを活用した教育の重要性が増していることから，教科書においても学習者用デジタル教科書を紙の教科書に代えて使用できる制度が実施されることとなった（2021b）。

2022年8月26日，文部科学省は2024年度からデジタル教科書を現場のニーズの高い「外国語科」において小学校5年生から中学校3年生に配布することを，また，早ければその翌年には「算数・数学」で導入する方向性を示した（文部科学省：2022a）。一方，山内・高橋・柳（2022）は，外国語教育研究の推測研究から小学校外国語科教育の「推測して読むこと」の指導における効果的な指導の一例を，紙媒体の絵本を活用して示した（山内・高橋・柳2022：65-71）。

本稿では，これらの研究を発展させて，小学校外国語科の目標である「語彙や表現を推測しながら読む活動」の指導のあり方について，一人1台のタブレット端末で活用できる学習者用のデジタル教科書を活用した指導の在り方を考察し，提案する。

#### 2. 情報活用能力の育成・ICT活用

##### (1) 学習指導要領

2020年度より全面実施されている学習指導要領は，将来の予測困難な社会において，情報活用能力を育成することが重要であると示している。そして，「情報活用能力の育成・ICT活用」では，情報活用能力を，言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け，「小・中・高等学校共通のポイント（総則）」において，「児童生徒の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため，各教科等の特性を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と明記されている（文部科学省 2019a）。また小学校の学習指導要領においては，「児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，児童の興味・関心をより高め，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること」と言及している（文部科学省 2018a：52, 131）。そして，「教科指導におけるICTの活用は，子供たちの学習への興味・関心を高め，分かりやすい授業を実現する上で効果的です。」と記されている（文部科学省 2019b）。

(2) デジタル教科書

デジタル教科書は指導者用と学習者用があり、指導者用は、電子黒板として多くは一斉授業で使用されている。一方、学習者用デジタル教科書は、一人一台のタブレット端末で学習することが前提とされている。

文部科学省は学習者用のデジタル教科書について、以下のように定義している（文部科学省2021b：3-4）。

平成30年の学校教育法等の一部改正等により制度化された学習者用デジタル教科書は、紙の教科書と同一の内容がデジタル化された教材であり、教科書発行者が作成するものである。このため、動画・音声やアニメーション等のコンテンツは、学習者用デジタル教科書に該当せず、これまでの学習者用デジタル教材と同様に、学校教育法第34条第4項に規定する教材（補助教材）であるが、学習者用デジタル教科書とその他の学習者用デジタル教材を組み合わせ活用し、児童生徒の学習の充実を図ることも想定される。

学習者用デジタル教科書は、指導者用デジタル教科書（教材）とは異なり、学習者用コンピュータにおいて児童生徒一人一人が使用するものである（図1）。

そして、学習者用デジタル教科書・学習者用デジタル教材の主な学習方法等の例として、以下の3つの方法が挙げられている（文部科学省2021b：8-9）。

(ア) 学習者用デジタル教科書を学習者用コンピュータで使用することにより可能となる学習方法

- ①教科書の紙面を拡大して表示する（ポップアップやリフロー等を含む）
- ②教科書の紙面にペンやマーカーで書き込むことを簡単に繰り返す
- ③教科書の紙面に書き込んだ内容を保存・表示する等

(イ) 学習者用デジタル教科書を他の学習者用デジタル教材と組み合わせ活用することにより可

能となる学習方法

- ①音読・朗読の音声やネイティブ・スピーカー等が話す音声を教科書の本文に同期させつつ使用する
- ②教科書の文章や図表等を抜き出して活用するツールを使用する
- ③教科書の紙面に関連付けて動画・アニメーション等を使用する
- ④教科書の紙面に関連付けてドリル・ワークシート等を使用する等

(ウ) 学習者用デジタル教科書を他のICT機器等と組み合わせて使用することにより可能となる学習方法

- ①大型提示装置や教師用コンピュータに児童生徒の学習者用デジタル教科書の画面を表示する
- ②ネットワーク環境を利用して、児童生徒が行った書き込みの内容や関連して検索した情報などを教師や児童生徒間、さらには学校・家庭間で共有する等

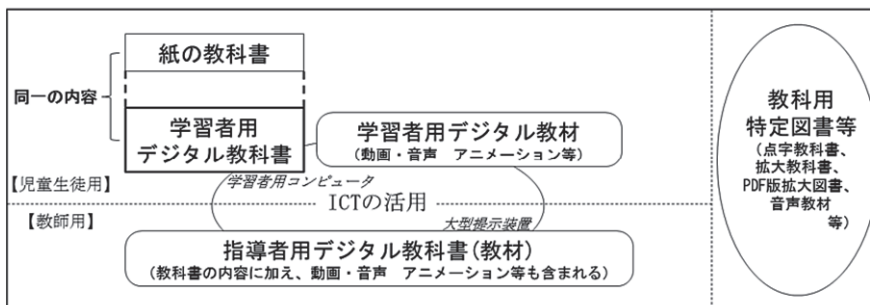
また、文部科学省『令和3年度 学習者用デジタル教科書普及促進事業』において、各教科の先進的な取り組みが紹介されている。そして、外国語教育においては、デジタル教科書の活用の効果については、以下のように提示されている（文部科学省 2022b：11）。

●個人のペースで学習を進めることができ、ネイティブ・スピーカー等が話す音声の確認、英語特有のリズム等の習得が容易に

音声読み上げ機能を用い自分のペースで本文を繰り返し聞くことで現代の標準的な発音を何回も聞くことができます。音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりすることにより、語と語の連結による音の変化や英語特有のリズム、イントネーションなどをまねて発音することができます。

●書き込みを通じて自分の考えなどを深めたり、児童生徒同士で考えなどを確認し合ったりする対話的な学

図1：＜紙の教科書や学習者用デジタル教科書等の概念図＞



文部科学省「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」令和3年3月改訂（P4）より転載

びが可能に

書き込み機能を用い、自分の考えや他者の考えなどを視覚化することで、容易に確認や比較ができるようになります。自分の考えを深めたり、児童生徒同士で考えを確認し合ったりすることを何度も繰り返し、試行錯誤しながら自分の発表内容を練り上げていくことができるようになります。

●英語で話されていることを聞いて意味を分かったり、適切に表現しようとしたりする主体的な学習を促進

音声読み上げ機能や書き込み機能等を使うことで、領域を統合した活動をより実施しやすくなります。他者との交流を繰り返す過程でデジタル教科書を活用することを通じ、より適切に表現しようとしたり、より理解しようとしたりするなど、他者に配慮しながら、主体的に学習に取り組むようになることが期待できます。

これらのことから、小学校外国語教育学習者用のデジタル教科書を「音声の確認、英語特有のリズム等の習得」から、「自分の考えや他者の考えなどを視覚化する活動」、4技能5領域を統合した活動として、「主体的に学習に取り組む」ことができる。

## Ⅱ. 小学校外国語教育における「推測して読むこと」について

### 1. 小学校外国語教育での「推測しながら読むこと」

#### (1) 学習指導要領

「読むこと」は、文字を認識する話し言葉と書き言葉に関連付けるプロセスであり、また、意味認知として文字から意味を見出し理解することでもある(Linse, 2005: 69)。すなわち、「読むこと」の活動は、文字を認識する活動と意味を理解する活動がある。Joan & Crandall (2022) は、児童の英語教育において、彼らの日常生活の様々な場面で「読むことの方略」が活用され、彼らの発達段階及び、「読むこと」の目的や文章の特質に応じて異なる方略を使用していることを述べている。そして、児童の読む活動について、「予測＝既に持っている内容に関する知識を活用して読む」「確証＝予想が正しかったかどうか確かめる」「関連付け＝既に持っている情報、あるいは今までの経験と関連付ける」「スキミング＝文章の主題をつかむために読む」「文脈の活用＝理解を深めるために文脈を使用する」「視覚化＝理解しやすくするために、読んだ内容をイメージであらわす」等、効果的な活動を11項目挙げている。(Joan & Crandall, 2020: 261-262)。

推測することは、結果的に言語獲得につながりうるが、本質的には聞いたり読んだりする場面においてその場の円滑な言語運用を目的とした「言語使用方略」

であるといえる(山内・高橋・柳2022: 60-61)。

学習指導要領の小学校外国語科の目標(2)において、「音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」ことが掲げられている(文部科学省2018: 71 下線は筆者による)。そして、「推測しながら読む」活動として、以下の3つの例が挙げられている(文部科学省2018a: 72)。

①中学年から単語の綴りが添えられた絵カードを見ながら何度も聞いたりしてその音声十分に慣れ親しんだ単語が文字のみで提示された場合、その単語の読み方を推測して読む。

②動物園の絵のそばに添えられた zoo という単語があれば、音声で十分慣れ親しんだ語を思い出して zoo が読める等、場面などを活用して読む。

③ book の b の発音を思い出して bed を推測しながら発音する。

また、英語科の(2)読むことの目標にも、「推測して読むこと」について以下のように述べられている(文部科学省2018a: 78)。

(イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味がわかるようにする。

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、掲示、パンフレットなどから自分が必要とする情報を得たり、絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりするなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることを示している(下線は筆者による)。

さらにまた、学習指導要領では言語活動において、児童に「推測しながら読ませる」活動例として、「言語活動及び言語の働きに関する事項」には、(ア)活字体で書かれた文字を見て、①文字を意識する活動、②文字を一文字ずつ読んで音声に慣れ親しませる活動、(イ)文字には名称と音があることに気付かせ、活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動、(ウ)音声で十分に慣れ親しむ活動、①活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動、②絵カードに語を書き添えてそれを使用し続けるなどにより、語を一つのまとまりとして徐々に認識する活動、(エ)音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動として、絵本の文を指しながら、①文に注目させる活動、②文の意味を捉える活動が示されている(文部科学省2018a: 104-106)。

## (2) 言語学習方略の知見による「推測すること」

山内・高橋・柳(2022)は、言語学習方略の知見から「推測すること」について考察した。言語学習方略は、学習者が第二言語を学習する時に効果的であり、Oxford(1990)とO'Malley and Chamot(1990)の分類法による「推測」を概念として、小学校外国語科教育において以下の3点を挙げた(山内・高橋・柳2022:60-63)。

- ①言語の理論や規則を活用して理解したり産出したりする演繹法としてのdeduction
- ②目標言語や母語などの知識を言語的手掛かりとする。または、意味と、文脈や状況、テキスト、一般的な知識(world knowledge)などの情報を非言語的手掛かりとした論理的帰結としてのguessing
- ③テキストから得られる情報を組み合わせた論理的帰結としてのinference

上記の知見から、学習指導要領に掲げている小学校外国語科の言語活動としての「推測しながら読む活動」について考察すると、①の“deduction”は、児童が既習の理論や規則を活用して、(仮説を立てて)「推測して読む」活動であることから、小学校外国語科教育では、言語規則を推測の手掛かりとして、音声では慣れ親しんでいるが、文字としては馴染みのない語句や表現を、アルファベット文字の発音を活用しながら読み・理解することを「推測」としている。そのため、音声で十分に慣れ親しませる活動を通して、児童が演繹的に推測することができる。例えば、英語の歌やチャンツ、文字が添えられた絵カード等の活用が挙げられる。

②の“guessing”は、学習者の知識の不足を、非言語的手掛かりをもとに補完する方法であり、「推測して読む」活動においては、語彙や表現をコミュニケーションの場面設定から推測したり、使用したりする活動ができ、絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を、イラストを参考にしながら識別したりするなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることが挙げられる。

小学校外国語科教育における“guessing”は、例として絵本を活用した指導が示されている。「絵本には、内容理解を促すための絵や写真がふんだんに使用されているということのほか、主題やストーリーがはっきりしていること、同じ表現が意図的に繰り返し示されていることなどの特徴が述べられており(文部科学省2018a:105)、これらの活動が「推測して読む」ことの活動につながることを示されている。

③の“inference”は、テキストから得られる情報を組み合わせた論理的帰結である。学習者の未知の語彙の意味や表現において、コミュニケーションの場面で語彙を学ん

だり、意味を推測したりすることで、話の展開を予想することは、複数の新情報同士や新情報と既知の知識などをつなぎ合わせ、本文には明文化されていない気持ちを推し量ったり、その後の展開を予想したりすることが“inference”に合致するものである(山内・高橋・柳(2022:63)。

小学校外国語科の学習指導要領には、“inference”を活用した例は記述されていない。しかしながら、小学校国語科においては、“inference”にあたる学習が行われていることから、認知的な発達段階には合致しているともいえる。小学校外国語科の「読む活動」を進展させ、中学校の学習指導要領では、「文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動」「イラストや写真、図表」など、社会生活で使われる様々な形式の視覚情報なども参考にしつつ、書き手が伝えようとしている「要点」を把握する活動」等が示されている(文部科学省2018b:60)。そのため、小学校外国語活動において、中学校への円滑な接続を視野に入れた活動に取り組むべきである。

### Ⅲ. 学習者用デジタル教科書を活用した「推測して読む」活動

#### 1. 学習者用デジタル教科書について

学習者用デジタル教科書は、文部科学省検定済みの教科書において作成されている。ここでは、文部科学省が「小学校外国語令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業(以下、実証研究事業)」(動画)(文部科学省2021c)で使用されていたデジタル教科書を取り上げて、効果的な「推測して読む活動」を提案する。

実証研究事業によれば、学習者用デジタル教科書の効果は、①知識及び技能の習得、②思考力、判断力、表現力の育成、③学びに向かう力、人間性等の涵養、の観点から示されている。

ここでは上記の観点による効果と言語学習方略の知見から、「推測して読む活動」における学習者用デジタル教科書の効果について具体例を示しながら論じる。

#### 2. 知識及び技能の習得と学習者用デジタル教科書

①言語の理論や規則を活用して理解したり産出したりする演繹法deductionでは、児童が「音声で十分に慣れ親しませる活動を通して、彼らが演繹的に推測することができる活動として、英語の歌やチャンツ、文字が添えられた絵カード等の活用」を指導できる。

学習者用デジタル教科書では、「音声読み上げ機能を用い、自分のペースで本文を繰り返し聞くことで現代の標準的な発音を何回も確認することができる」「音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞くことにより、語と語の連結による音の変化や英語特有のリズム

イントネーションなどをまねて発音することが可能」「自分が表現したい音声を個別に確認できる」「自分の聞きたい部分を何度でも繰り返し確認できる」などが述べられている（文部科学省2021c）。

学習者用デジタル教科書を活用すれば、児童一人一人のペースで、「音声で十分に慣れ親しむ活動」ができる。そして、推測して読む活動にするために、動画にあがっているチャンツや歌を通して、語彙や表現をチャンクで覚えることが効果的である。



(Here We Go! 6 : 52, Unit 4)

### 3. 思考力、判断力、表現力等の育成と学習者用デジタル教科書

②目標言語や母語などの知識を言語的手掛かりとする意味と、文脈や状況、テキスト、一般的な知識（world knowledge）などの情報を非言語的手掛かりとする非言語情報からの論理的帰結“guessing”では、「推測して読む」活動を行うためには、補完部分を語彙や表現をコミュニケーションの場面の中で覚えたり、使用したりする活動が効果的である。そして、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることが挙げられる。

この教材では、ユニットの内容を理解することができる視聴覚教材としてデジタル教科書教材として「Watch」が組み込まれている。児童はこの動画を視聴することで、コミュニケーションの必然性の中での言語活動をすることができる。

学習者用デジタル教科書では、「音声読み上げ機能」を用い、英語の文字をつけて動画を繰り返し視聴することができる。児童は、言語外情報を伴って示された語句や表現を「推測して読む活動」へとつなげることができる。



(Here We Go! 6 : 52, Unit 4)

### 4. 学びに向かう力、人間性等の涵養と学習者用デジタル教科書

「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する過程を通して育成される。学習者用デジタル教科書機能を生かして、児童が他者との交流を通じ他者に配慮しながら主体的に英語で話されていることを聞いたり、意味を分かろうとしたり、より適切に表現したりするようになることが期待できる」と示されている（文部科学省2021c）。

一方，“inference”は、テキストから得られる情報を組み合わせた論理的帰結である。学習者の未知の語彙の意味や表現において、コミュニケーションの場面で語彙を学んだり、意味を推測したりすることで、話の展開を予想することは、複数の新情報同士や新情報と既知の知識などをつなぎ合わせ、本文には明文化されていない気持ちを推し量ったり、その後の展開を予想したりすることができる。

デジタル教科書に取り入れられている「Story」は初めてレッスンを学習する児童がこのレッスンの概要を把握できるような内容となっている。「Story」は、絵本仕立てのように動画が作成されており、ユニット全体の学習内容が把握できる。したがって、音声に字幕を入れて、基本的な表現を推測しながら読むことができ“guessing”の活動が可能である。さらに、登場人物による3人の同じパタンの表現を読み、絵や写真を手掛かりに推測することで、話の概要を把握することができる。これは“inference”の活動として有効である。

Here We Go! 6 : Unit 4「My Summer Vacation」の「Story」は、教師が夏休みの過ごし方について、Lily, Kazu, Shota の3人がどんな場面でどんなできごとが話題になっているのかを推測しながら動画を視聴する。

動画の場面は、教師が夏休みの過ごし方について、“How was your summer?”と尋ねて、3人の登場人物が一人一人発表する内容である。

この動画を初めて視聴した児童でも話の概要を容易に理解することができ、さらに、登場人物が話している内容について聞いて、それぞれの文を推測して読む活動へとつなげることができる。

そしてこのレッスンの内容を理解した後に、児童は、「世界の小学生が夏休みにしたこと」を紹介する動画を視聴し、児童はテキストから得られる情報を組み合わせ、意味を推測したりすることで内容把握ができる。



Lily: I went to Australia.



Kazu: I went to an English camp with Yui.



Shota: I went to the summer festival with Nick.



(Here We Go ! 6 : 56, Unit 4)

#### 5. 学習者用デジタル教科書を使用した授業における教師の指導

M県では、学習者用デジタル教科書の活用において「小学校外国語科」の研究はじめ、S市K小学校において、6学年の指導者用デジタル教科書と学習者用

デジタル教科書を活用した授業を参観した。

教師は3年生の担任で6年生の授業は「英語専科」として、今回初めての授業であった。しかしながら、昨年度受け持った児童が約半数いるとのことで、教師と児童の関係はととてもよく、児童は「主体的に」授業に臨んだ。

今回は、県の研究事業ということで、研究目的である「学習者用デジタル教科書を活用した授業」を行った。児童も教師も初めての学習者用デジタル教科書を活用した授業であった。

Greeting, Small Talk の活動の後に、教師は本単元での導入として、デジタル教科書を使用し、本単元の内容把握として「Story」の動画を視聴させた。「Story」は、映像を使用した内容理解に活用される教材であり、

大きなパノラマのイラストとアニメーションのストーリー映像を使って、英語が話されている場面設定がされている。児童は「Story」を視聴しながら、言語活動の場面・状況や話題を確認することができる。

教師は「Story」を視聴する活動を3回実施した。1回目は指導者用のデジタル教科書を使用し、クラス全員で視聴した。ここで視聴した後に教師は、児童に通して聞かせて概要を推測させた。

2回目は、学習者用デジタル教科書を活用して、児童一人一人が自分のペースで視聴した。ここでのデジタル教科書を活用する目的は、児童が「映像を視聴し、夏休みに行った場所、したこと、感想等話の概要を捉える。」ことであった。

学習者用デジタル教科書では、児童一人一人が自分のペースで視聴することができた。教師は、Lily, Kazu, Shotaの3人の登場人物の絵を黒板に貼り、その隣にLily, Kazu, Shota各々がデジタル教科書で話し始める時間として、「Lily 0:20」,「Kazu 0:54」,「Shota 2:00」を黒板に書いた。この教師の工夫によって、最初の登場人物から視聴している児童もいたが、この時間を手掛かりに、自分の聞きたい登場人物から視聴している児童もいた。そして、黒板に貼られた登場人物の絵カードを手掛かりにして、児童用デジタル教科書を活用してコミュニケーション場面や話の状況など、児童が登場人物の話している概要を把握できる指導もされた。

学習者用デジタル教科書は速度調整等もできることから、児童は自分の学習能力や学習速度に合わせて、視聴したり、音声聞き取れなかったところ等の動画を繰り返して視聴した。

「音声を聞く活動」から「文字を読む活動」へとつなげるために、児童には音声に十分慣れさせて「文字を読む活動」を行う。ここでは、登場人物の発話をデジタル教科書の機能にある「字幕なし」から「字幕あり」に変更させる。このような機能を活用することで、児童は音声で十分に慣れ親しませる活動を通して、文字を推測しながら読む活動を行った。

3回目は、各登場人物のLily, Kazu, Shotaをそれぞれに分けて聞かせた後、クラスで「Story」の内容を登場人物別に確認した。

教師は、児童全員が理解したことを確認しながら、Lily, Kazu, Shotaの登場人物の絵を貼った横に、「I went to ～.」「It was ～」等、カテゴリ一名に気付くように語彙や表現に応じて、文字が添えられている絵カードを提示した。そして、次の活動である「児童が推測しながら読む活動」ができるように促した。



(2022年9月5日 筆者撮影)

#### IV. 課題と展望

ICTを活用した教育の重要性が増加し、教科書においても学習者用デジタル教科書を紙の教科書に代えて使用できる制度が実施されることとなった。文部科学省は、2024年度までに外国語科教育において、学習者用デジタル教科書が導入することを決めた。しかしながら、学習者用デジタル教科書を活用した研究はまだ始まったばかりである。小学校現場では、一斉授業と個別授業における学習者用デジタル教科書やデジタル教材の活用方法や、家庭での活用等から保護者へのデジタル教科書の理解等、様々な課題が山積している。

現在、教師は指導者用デジタル教科書・デジタル教材を一斉授業で活用することができるようになり、授業では、英語の歌やチャンツ、英語を聞くこと等の「音声」の補助として活用したり、児童が動画を視聴したりすることで、彼らにコミュニケーションの場面を容易に理解することを促し、興味・関心を高めることができる。また、デジタル教科書・デジタル教材では、児童がインタビュー活動やゲーム等のコミュニケーションの場面において、動画を視聴することもできるので、容易に理解できる。

一方、学習者用デジタル教科書・デジタル教材の活用は児童が個々人のペースで「音声に慣れ親しむ活動」や「語彙や基本的な表現の定着」を図るためのものとして重要である。とりわけ、学習指導要領における小学校の文字指導では個人差が大きい。「音声で慣れ親

しんだ語彙や表現」を「文字を推測して読む活動」へとつなげる活動では、学習者用のデジタル教科書を活用することで、児童は個々人のペースで繰り返し視聴でき、音声と文字に慣れ親しむ等の文字学習を進めることができる。さらに、学習者用デジタル教科書の書き込み機能を活用して、指導者が示す語彙や表現について、そのままデジタル教科書に書き込みをしたり、音声を聞いて文字を指し示す等の活動も個々人の理解度に応じてすることができる。

しかしながら、授業では、個人的な学習を同一時間で一斉に行う場合もある。そのため、児童の能力的なことで個人差が顕著に生じてしまうことが懸念される。

指導者用デジタル教科書と学習者デジタル教科書とを一斉授業で使用するための研究は始まったばかりである。2024年度の導入に向けて、様々な事例研究を行い、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を一体的に育成する過程を通して育成される「読むこと」における小学校外国語教育デジタル教科書の効果的な活用法を提案していきたい。

#### 謝 辞

本研究はJSPS科研費17K03008, 20K00858の助成を受けたものである。

#### 引用・参考文献

- Ellis, R. (1994). *The study of second language acquisition*. Oxford, England: Oxford University Press.
- Joan K. S. & J. Crandall (2020) *Teaching Young Learners English*, National Geographic Learning, 町田智久訳『児童英語教育の理論と実践』アスク出版
- Linse, C.T. (2005) *Practical English Language teaching: Young learners*. New York: McGraw-Hill.
- 光村図書出版 (2020) *Here We Go ! 5, 6*  
デジタル教科書 学習者用, 指導者用.
- 文部科学省 (2018a) 『小学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 外国語活動・外国語 編』開隆堂出版.
- 文部科学省 (2018b) 『中学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 外国語活動・外国語 編』開隆堂出版.
- 文部科学省 (2018c). 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』東洋館出版.
- 文部科学省 (2019a) 「新学習指導要領のポイント (情報活用能力の育成・ICT活用)」2019.5.21発表資料.
- 文部科学省 (2019b) 「第11章 ICTの活用の推進」  
『平成30年度 文部科学白書 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン激甚化する災害への対応強化』.  
[https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11509864/www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm](https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11509864/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm)
- 文部科学省 (2021a) 「GIGAスクール構想の実現へ」リーフレット, [https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf), 2022.9.20.
- 文部科学省 (2021b) 「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」.

- 文部科学省 (2021c) 「06 小学校外国語令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業 小学校外国語」.  
<https://www.youtube.com/watch?v>
- 文部科学省 (2022a) 「3. 学習者用デジタル教科書について」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/gaiyou/04060901/1349317.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/gaiyou/04060901/1349317.htm)
- 文部科学省 (2022b) 『学習者用デジタル教科書実践事例集』
- 岡井崇 (2022) 「外国語科学習指導案」三重県鈴鹿市立神戸小学校 2022, 9, 5 参観授業
- O'Malley, J. M., & Chamot, A. U. (1990). *Learning strategies in second language acquisition*. Cambridge University Press.
- Oxford, R. L. (1990). Language learning strategies: *What every teacher should know*. Newbury House Publishers.
- [穴戸通庸・伴紀子 訳 (1994) 『言語学習ストラテジー 外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社).
- 高橋美由紀, 中村章二, 犬飼和夫 (2021) 「GIGA スクール構想を目指した小学校教員養成カリキュラム開発 - 実践的な英語力を育成するための国内・海外教育実習教員養成プログラム -」『鈴鹿大学 教職教育センター紀要』 第二号 pp.45-55.
- 山内優佳, 高橋美由紀, 柳善和 (2022) 「小学校外国語科における推測して「読むこと」の指導」『日本児童英語教育学会紀要』 第41号 pp.59-73

(2022年9月26日受理)